

下野市立石橋小学校

1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成
～対話的な学びを通じた深い学びの実現をめざして～

2 研究計画

- (1) 授業の充実を図り、自ら学び解決に向かう態度と能力を育む。
単元の構成や授業展開を見直し、児童が学ぶ必然性を実感し、学習内容の意味や価値を自覚できるようにする。(めあて・振り返り)
- (2) 言語活動の充実を図り、豊かに学び合う集団を育てる。
多様なものの見方や合理的な説明・質疑応答ができるような話合いや言語活動を通して、学び合う集団を育てる。
- (3) 分かる授業、できる授業を展開する。
基礎基本の定着を図り、知識や技能が整理され、問題解決的な学習に活用できるようにする。
- (4) 外部講師の活用を図り (S & U コラボ事業等)、研修会の充実を図る。

3 研究内容

(1) 研究の方法

- ① 研究教科を算数とし、学校課題追究のため、授業改善の視点を絞って研究に取り組む。
- ② 低学年・中学年・高学年の3つの部会を設け、児童の発達の段階に応じた授業実践を行う。
- ③ 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の調査問題の分析を全教職員で実施し、学年ごとの課題を設定する。共有された授業改善の視点を基に、教師一人一人が日々の授業の質を高める。各自が、自主的公開も含め、研究授業を年間1回公開する。
- ④ 授業研究会の充実を図る。
 - ・ 外部講師を招く授業は、学年で事前授業を行い、ブロックごとに授業検討会を開き、研究授業の質を高める。
 - ・ S&Uコラボ事業を活用し、外部指導者の指導を受ける。
 - ・ 授業後の協議では、KJ法を取り入れ振り返りを重視する。ワールドカフェ方式で意見を共有し、自由に話し合える雰囲気作りを心掛ける。



(2) 研究の実際 実践内容 (1月末日までの実施内容)

日時	形態	授業者	教科	授業内容
4 / 4	校内研修	学校課題研修	学校課題	組織作り
5 / 29	校内研修	学校課題研修	授業研修計画の確認・進め方	授業研究の方向性・視点の確認と共有化
6 / 28	自主公開	佐藤由佳	1年 算数	「どれだけおいしい」
7 / 12	S&U事業	倉井寛子	1年 算数	「どれだけおいしい」 宇都宮大学 日野圭子先生
8 / 5	校内研修	学力向上	全国学力・学習状況調査・とちぎっ子学習状況調査分析	
9 / 11	新採研修	岡田陽名	2年 道徳	「森のともだち」
9 / 18	S&U事業	櫻井 光	3年 算数	「あまりのあるわり算」 宇都宮大学 日野圭子先生
9 / 25	自主公開	増渕敦子 元木あすか	4年 算数	「面積」
10 / 1	下小教研事前	三浦とも子	つくし 自立活動	「クイズを決めて出し方を考えよう」

10/1	下小教研事前	本澤雅恵	たんぼほ	自立活動	「かっこいいポケモン図かんをつくろう」
10/2	自主公開	佐藤郁哉 元木あすか	4年	算数	「面積」
11/18	自主公開	天野翔之	6年	算数	「資料の調べ方」
11/19	下地区人権 教育研修	佐藤郁哉 宮本真帆	4年	総合	「考えよう」バリアフリーの社会」
11/25	自主公開	木下 恵	6年	算数	「資料の調べ方」
12/ 4	S&U事業	田口今寿美	6年	算数	「資料の調べ方」 宇都宮大学 日野圭子先生
12/ 5	中堅研修	永井友美	2年	算数	「かけ算九九づくり」
1/21	自主公開	相原浩幸	3年	算数	「かけ算のひっ算」
1/22	校内研修	今年度の学校課題振り返り・研究の反省			
1/22	自主公開	飯野泰貴	5年	算数	「正多角形と円」
1/23	自主公開	高橋 彩	5年	算数	「正多角形と円」
1/27	自主公開	黒須 瞳	5年	算数	「正多角形と円」
1/31	自主公開	岡田陽名	2年	算数	「1を分けて」

4 本年度の成果と課題

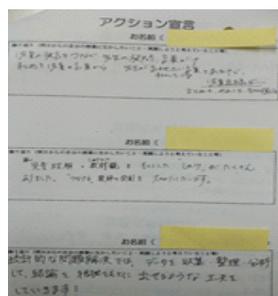
(1) 研究の成果

- ① 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の分析を基に、根拠のある授業提案ができた。「つまずき」の原因を考察し、単元構成の見直しに生かした。課題設定では、実践的な場面を想定し、児童が自分の生活とつなげて考えることができるよう工夫をした。その結果、学びへ向かう意欲や態度に向上が見られた。
- ② 「一人一授業」の共通実践の下、互いに日々の授業に課題意識を持って取り組み、多くの授業を参観し研修できた。低・中・高のブロック部会において、お互いの学年や単元の系統性等の理解がより進んだ。本年度は、研究の単元を学年で統一したことで、単元の内容や時間のまとまりの中で指導内容のつながりを意識しながら見直しを進めることができた。
- ③ 昨年度からの課題であった「対話の在り方」を共有するため年度当初に研修を行った。「対話的な学び」が実現している姿はどのようなものかなど、学校全体で視点を確認し、授業改善を図ることができた。
- ④ 本年度は、学力向上推進リーダーからの指導をもとに本時の目標から授業のゴール（目標を達成した子どもの姿）を具体的にイメージし、授業の組み立てを考えたことで、めあてと振り返りに一貫性をもたせられるようになってきた。来年度も「質の高い振り返り」は「質の高いめあて」からうまれることを意識し、確実な実践を目指していきたい。

(2) 研究の課題



- ① ブロックごとの部会を基本として、授業を参観できる体制を整えたが、他のブロックの授業を参観することは時間調整が難しい時期もあった。ブロックリーダーを中心に授業公開の時間を周知し、他のブロックからも参観や授業後の振り返りに参加できるよう努めるなど、互いの授業を参観し合えるための協力体制づくりを整えていきたい。



- ② 授業研究会では、マトリックスシートを使い、参加者全員が考えを発言し熱心に協議ができた。また、研修の最後に自分自身で「アクション宣言」をすることで、研修の成果を、普段の授業改善に生かそうとする意識を高めた。来年度は、算数以外の教科においても授業改善の意識を高めていきたい。